

令和5年度浜松市PTA連絡協議会指導者研修会に出席しました。

2023.9.9

【その1・第3分科会 心のケア教育編】

今年度、大平台小学校が市P連の広報委員会を担当しております。

そこで、広報活動の一環として指導者研修会の第3分科会を取材してきました。この第3分科会は「子供のこころの育ちについて」という議題で、不登校の子どもたちを支えるNPO法人はままつ子どものこころを支える会の小粥先生がお話してくださりました。

「不登校」の要因は様々であり、100人いれば100通りの要因が背景にあるといえるそうです。不登校だからと親が必死になるのは分かりますが、長い人生、数年学校に行けなくても大した問題ではありません。と優しい語り口でお話くださいました。

子どもにとって大切なことは、「安心感とつながる力」「この世に存在してもいいという実感」だそうです。

子どもの話を聞いて温かい言葉をかける、褒めてあげる。

子どもの気持ちを受け止めてあげ、安心を与える。

それが、子どもの次への大きなステップにつながるそうです。

そして気持ちのつながりは、子どもの自信につながるそうです。

この不登校の子どもたちが通う、浜松市校外まなびの教室は市内に10か所もあるとのことでした。

こころのつながり、安心感を大切に運営されているとおっしゃっていました。もっともっとみんなに知ってもらいたいので、この教室の事をたくさんの人にお話ししてください。そして、困っている人はご連絡をください。とお話されていました。

子どもたちの明るい未来のために、私たち大人ができることは何か、と考えさせられる時間でした。

帰ってきた子どもたちをぜひ温かく迎え、今日がんばったことを褒めてあげましょう！

(PTA三役 開田)

【その2・第2分科会 メディア教育編】

第2分科会は『「デジタル社会」を生きる私たち』をテーマに、NPO法人浜松子どもとメディアリテラシー研究所の長澤弘子さんがお話しされました。抜粋して紹介します。

●小学生1人ひとりが1台ずつタブレット端末を使って授業を受ける今の時代、インターネットとつながるメディアについて、束縛や制限、排除するのは不可能と心得ましょう。

子どもが自分で使い方について考え、自分を守れる「よき利用者」になれるよう、大人が導いていく必要があります。

●ネットの過剰な使用で、体や心など健康への問題（昼夜逆転・不眠・イライラ・無気力など）、家族や社会など人間関係の問題（暴言・暴力・いじめ・成績不振・不登校など）が起きている状態が“依存”です。特に随時情報が更新されるSNSは依存性が高いです。

小学校高学年からの思春期は、ホルモンの影響もあり身体・脳・心の発達・変化が目まぐるしく、子ども自身も体の中で起こっているぐちゃぐちゃについていけなくて、大人に反抗したり、ものに当たったりしてしまいます。「ネットの中が居心地がいい」「ネットの中の人だけが私の気持ちをわかってくれる」となってしまうように、親は子どものしていること、見ているものに関心を持って、知ることから始めましょう。

●使い方の約束は、親が一方向的に決めるのではなく、子どものやりたいことと親の思いをお互いしっかりぶつけ合い、実現可能な目標を一緒に考えて決めましょう。1日24時間のスケジュールを書き出して、睡眠や学校、食事、入浴など生活に必要な時間、習い事や趣味など自分のために必要な時間をひいていくと、残りの空き時間でネットに使える時間が見えてきます。約束を絶対に守らせることより、話し合う過程を大切に。守れなかったらどうするか、も一緒に決めておきましょう。また、親は、自分もスマホの使い方を見つめなおし、子どもにマネされて困ることは子どもの前ではしないようにしましょう。

●約束を守れない時にスマホを取り上げたり、Wi-Fi回線を遮断することなどはかえって逆効果の対応です。メディアの使い方のことで子どもから暴言・暴力があった時には抱え込まないように、さらに昼夜逆転してしまっているような場合は医療機関に相談を。

私自身も、何となく空いた時間にスマホを見始めてしまいあっという間に時間が経っていて焦る、ということも日常茶飯事で、親も使い方の見直しを、など耳が痛い話も多かったですが、1学期の授業参観後の懇談会でも話題になっていたので、心配されたり、困ったりしているご家庭の参考になれば、と思い、ご紹介しました。子どもが安全・安心に、賢くメディアと付き合っていけるように、親子でお話ししてみたいはいかがでしょうか。